

北岳バットレス Bガリー大滝、ヒドンガリー大滝

平成18年7月20～21日

L白土、平本(記)

前夜各自で芦安まで行き、始発のバスに乗り合わせる事になった。

想像以上に混雑しており、第五駐車場にようやく駐車。メールで連絡がつき、白土君と合流できた。

7月20日

翌朝、タクシーで広河原に向かう。

(5:55)広河原で河崎君パーティと合う。ピラミッドフェースから中央稜に向かうという。さすがである。

乗り物を降りると、一目散に歩き出す人が多い。

我々はゆっくりとしたスタート。休憩ポイントで

次々追い越し、順調に(8:22)御池に着く。

テントを張り、大樺沢に向かう。

(9:20)二俣。相変わらずバイオトイレが目立つ存在だ。

二俣からはっきりとした二本目の沢が目指すバットレス沢のはず。

大樺沢は雪が多かった。左岸に付けられた登山道に近い高さまで雪がある。前回、同じ時期に来たときは雪渓歩きは問題なかったので、普通の歩き用靴を履いてきた。念のためミニアイゼンを装着したのだが、スリップして上手く歩けなかった。

暫く登って、二俣から二本目の沢に着いたが、二俣から随分近いのと、沢が小さいので違和感があったが、「自分の記憶はあてにならない」との思いから、ためらわず登っていった。

記憶よりも、急な沢と巻き道を登って行くと、横を向いて正面にクラックのある奥壁にぶつかる。

(10:50)大滝着。壁の左上にはテラスがあり、右壁はスラブで記憶と一致するが、高さが低いようにも思える。

雪渓を詰め上がると、壁との間には1、5mくらいのシュルンドが空いている。飛び移る事を提案したが、危険につき却下。クラックの右にハーケンがあり、白土君は難しそうなスラブを登るという。途中何本かハーケンを打ち足しながら白土君は登りきった。後を追って登ると、彼の見立てどりに登ることができた。セカンドだから登れたが、ここをハーケンを打ちながら登った白土君は大したものだ。自分の感覚では、リュックを背負うことを加えると、5級下くらいに思う。ザイル長で40mくらいあった。

大滝をのぼってから、尾根を回り込む踏み跡を探して歩き回るのが見つからない。右往左往して、無理矢理尾根を回り込むと、Cガリーと4尾根が見渡せるはずだった。しかし、そこに広がる風景はバットレス沢から5尾根支稜まで見事に広がった下部岩壁だった。

(14:40)バットレス沢左岸。「あーあ。やはり間違えていたのだ。ここはヒドンガリーだったのだ。」

皮肉にも天気は良く、岩登りには最高だ。河崎君パーティは順調に中央稜を目指しているであろう。帰りのバスの時間から、今回の4尾根登はんの可能性は無くなった。「白土君申し訳ない」彼は良く山に誘ってくれる。山に行けば仲間に気遣いをしてくれる、良い男だ。今回は彼が初回で、私は5回目のバットレスということで、私を信頼してくれていたに違いない。

がっかりした顔一つせず、にこやかな白土君を見ていると辛さは少し和らいだ。

バットレス沢を大樺沢まで降りてくると、バットレス沢出合いの大岩は雪で隠れており、ここまでの道もしっかりと踏まれていて、ヒドン沢とは全く違った。

頭の中をモヤモヤさせながら御池へ下り始めると、「ドドン」という大きく鈍い音。

白土君が「人が落ちた」と言って、飛んで行く。雪渓を踏み抜いて落ちたようだ。自分は立ち止まってどうしようか考えてしまった。

事態は大したことはなく、怪我もなく青年が一人現れて安心するが、やはり雪渓は崩れるものなのだと改めて知った。

(16:50)御池戻ってビールをしこたま買い込んだが、白土君はあまり飲まない。

一人で少々飲み過ぎた。

翌日は時間に限りがあるので、「根性起き」して4尾根に最挑戦。とも思ったが、渋滞していたらアウトなので、Bガリー大滝を登って、取り付け点が見える所まで行く事にする。

7月21日

(5:00)出発。大樺沢からバットレス沢は全く歩きやすく、人気ルートのアプローチらしい。

(7:00)B大滝。雪が多いので、取り付け点は見えない。雪渓と壁の間を右足岩、左足雪で登るがやっかいだ。

大滝のクラックに取り付いてしまえば快適だ。岩は日を受けて人肌の暖かさで感触がよい。ルート上は浮き石も少なく気持ちよく登ることが出来た。

交代で約80mの大滝を登り終え、横断バンドを目指す。後続パーティがあったので、石を落とさぬよう、草付き部分を登っていたら落石に襲われた。スイカ大の大石数個を含む岩の群がすぐ横を飛んで行く。

「落!!!」出せるだけの大声で叫んだ。後続パーティの悲鳴が聞こえた。「やられたか」と思った。「大丈夫か!!!」と叫ぶと、「大丈夫だ」とのコールがあった。落石ばかりは運だろうか？先行パーティの一人がポロポロ石を落としていたのでいやな予感がしていたが、あんなのに当たったら木っ端ミジンだ。石を落とさない事も、落とされないことも大切だと思った。

今度ばかりは正規のルート上で、横断バンドもすぐに見つかる。その直前に少し脆い所があり、要注意。

難なく尾根を回り込むと、目の前にCガリーと4尾根の広がりか飛び込んでくる。(9:30)Cガリーは上部まで雪に覆われている。ヒドンスラブも厚い雪が乗っており、容易ではないかも知れない。横断バンド末端から取り付いているパーティーを見てそんなことを思った。

天気は快晴、クライミング日より。目的地は手の届きそうな所にありながら、引き返さなければならぬのは辛い。

Bガリーは落石を起こさないよう、ブッシュ帯を上手く使って懸垂した。

大滝は終了点から50mダブルで2回懸垂すれば、急な雪渓部分まで横断できた。細心の注意を払っても、ザイル回収時にはわずかに石を落としてしまう。こればかりは仕方ないか。

今回のバットレスは敗退だった。何より、解っているはずのアプローチで間違え、その間違いにはっきりとした結論を出さないままに行動してしまった自分の責任である。それでも終始穏やかに落ちていた行動の白土君に感心し、滅多に登る機会のない大滝に登れたのだからいいではないか。そんな晴れた気持ちで雪渓を御池目指して下って行った。

(12:00)白根御池

(14:25)広河原

コースタイムは白土さん記録による